

<p>【技術の名称】 SRC-L A Phoop工法 -SRC柱梁接合部内フープを梁ウェブ孔を貫通する重ね継手で形成する工法-</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第02-11号 性能証明発効日：2002年9月3日</p> <p>【取得者】 前田建設工業株式会社</p>
--	--

【技術の概要】

本工法は、L形やコ形などの形状に加工した鉄筋を、鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造柱梁接合部における内蔵鉄骨梁ウェブの貫通孔の両側より挿入して重ね継手を形成することにより、柱梁接合部内の帯筋を施工する工法である。本工法の特徴は、現場での施工性が優れ、かつ、安定した品質が得られるとともに、工期の短縮ならびに施工費用の低減を図ることができる点である。

【技術開発の趣旨】

SRC 造柱梁接合部内の帯筋の施工に際しては、従来、内蔵鉄骨梁ウェブの貫通孔に片側から通したL形折り曲げ鉄筋相互を現場溶接で閉鎖型に接合することが多い。この工法によると、現場での施工性が悪く、溶接の品質管理が難しい。本工法は、これらの問題を解消することを意図して開発されている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
 申込者提案の設計・施工要項に従って構築した鉄骨鉄筋コンクリート造柱梁接合部は、慣用の溶接継手による帯筋を用いる場合と同等の構造耐力上の性能を保有すると判断できる。従って、設計に際し、溶接継手による帯筋の場合と同等の日本建築学会「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」で規定された長期許容せん断力、短期許容せん断力および終局せん断耐力を採用できると判断される。

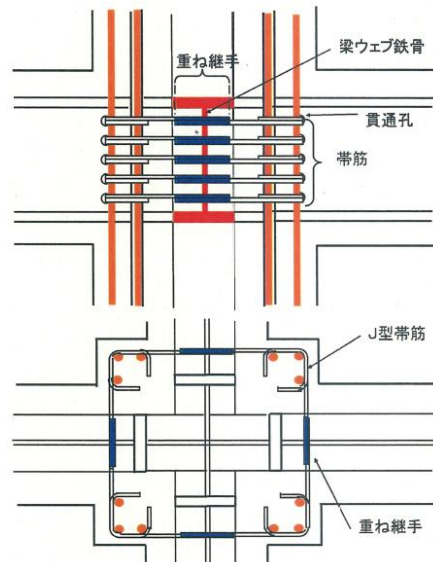


図1 SRC-L A Phoop 工法断面

表1 SRC-L A Phoop 工法断面に用いる帯筋形状

名称	形状
L型	<p>重ね継手 内法直径 3 d</p>
J型	<p>重ね継手 内法直径 3 d 中間余長 3 d 以上</p>
コ型	<p>重ね継手 内法直径 3 d 中間余長 3 d 以上</p>
レ型	<p>135° 重ね継手 内法直径 3 d 余長 6 d</p>

【本技術の問合せ先】

前田建設工業株式会社 担当者：成瀬 忠 E-mail：tnaruse@jcity.maeda.co.jp
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-8-8 猿樂町ビル TEL：03-5217-9542 FAX：03-5217-9641